

初級者のためのチューバ独奏曲

Tuba Solo Repertoire for Beginners

千 葉 圭 説

Keietsu CHIBA

はじめに

近年、小学校、中学校から高等学校まで吹奏楽の人気により低音最大楽器であるチューバを演奏する児童、生徒が増えてきた。1年に1度行われる各地域での独奏コンクールを審査する機会に恵まれ改めて日本におけるチューバ独奏曲のレパートリーや指導法、演奏法について再確認が必要であると認識した。チューバという普段、吹奏楽やオーケストラの中では独奏をする機会が少ない楽器にとって独奏楽器として旋律も奏でられるという意識が生まれたのはここ20年といっても過言でないでしょう！！私がこどものころはCDなど専門家が演奏している録音もごく限られた人しか買うことができないし、一般には耳にすることができない世界。1990年台に入り、CDの普及で欧米のプロ奏者が独奏演奏を世界へ発信したのが現在への演奏レベルの上昇と日本の生徒たちもソロ演奏という意識へ導いた大きな原因と考える。

目 的

前段でも書いたが独奏楽器の普及は欧米のプロ奏者がCDを通じて普及された。最初から小学生、中学生のように初級者向けに作曲された作品を演奏していない。多くの作曲家も専門家を対象によりテクニカルで音楽的な難しい作品を提供する傾向になり小学生でも演奏可能な楽曲はきわめて少ない。下記に紹介する曲は数少ない独奏作品の中から初心者でも演奏可能なものを演奏上のヒントや楽曲分析を含めて紹介しトランペットやフルートなどと同等に独奏楽器として地位を築いてもらえるように紹介したい。

作品紹介 1

曲 目：In the Hall of the Mountain King from Peer Gynt Suite

作曲者：Grieg- Holms

楽 曲：

有名なグリーグ作曲のペールギュント組曲より洞窟の穴をチューバのために編曲した。今回紹介する曲すべてだが学校の吹奏楽で使用している Bb または Eb チューバでも演奏可能なものに限っている。音域については普段、吹奏楽のパート譜と同様な音域でかかれており初心者でも始めて楽譜をみても演奏可能でありとても親しみをもって演奏できる。演奏上の注意としては下記の参考楽譜を見ていただくとスタッカートがが全体に多く使われ音を短くするのですが曲想に合わせた、重みを含んだ個々の音創りが必要。また強弱についてはピアノからフォルテまでの音量変化を数小節ごとに要求されますが荒い音でなく温かみを含んだ音をイメージして練習しましょう。また最後の音は低い C 音で終わり、Bb チューバでのピストンは 4 番または 1. 3 番のコンビネーションなので特に正しい音程作りを心がけなければいけない。

参考楽譜 1

In the Hall of the Mountain King

from
PEER GYNT SUITE

EDVARD GRIEG
Arr. by G.E. Holmes

Marcia marcato

(3)

p

f

p

gva bassa

楽譜引用：Rubank, Inc

作品紹介 2

曲 目：Scherzo Pomposo

作曲者：Harold L. Walters

楽 曲：

この楽曲はアメリカ軍音楽隊のチューバ奏者によって作曲された作品であり音域やリズムの使い方などチューバの特性を知った上での作品に思われる。まず、1で紹介した曲、同様の音域では初心にも支障なく吹くことができるものを使用している。前半でトリルを使用するなど重みのあるサウンドだけでなく軽やかで面白みをだす部分をアピールしている。比較的早いテンポでのリズムの面白さや楽しさを表現するところや中間部でのレガートセクションで旋律の美しさを出すところから最後は力強く *ff* で最後を飾るという構成になっている。2分15秒という短い作品だが音楽要素がいろいろあり演奏者も聞いている観客も楽しむことのできる楽曲である。

Scherzo Pomposo

Solo for E♭ or B♭ Bass

HAROLD L. WALTERS

Con brio (♩=96 or faster)

Solo

Piano

f

p

(9) *tr* *mp* 5

(17) 0

楽譜引用：Rubank, Inc

作品紹介 3

曲 目：Forty Fathoms

作曲者：Harold L. Walters

楽 曲：

この楽曲は初級者でありながらより経験が豊富な奏者向けの作品であり、テンポの変化や拍子の変化など音楽を表現する上での分析力や理解が要求される。大きくセクションにわかれており *Maestoso*, *Allegro Moderato*, *L'stesso Tempo* の3つによって構成されている。最初はチューバ独特の豊かで重みのある音の響きを利用し表情をつけた部分、2つ目は6/8拍子を強調したリズムの魅力をアピールした部分、そして最後は2/2拍子でよりスピード感をアピールしチューバでのテクニカルな技術をアプローチする部分で楽曲がつくられている。音域も少し高い音まで要求されるが中学生以上で演奏可能と思われる。ソロコンクールなどで利用できる良い作品である。

Forty Fathome

Solo for Eb or BB♭ Bass

HAROLD L. WALTERS

Maestoro

Solo Eb or BB♭ Bass

Piano

ff

(5)

f

majestically

mp

楽譜引用：Rubank, Inc

作品紹介 4

曲 目：Emmett's Lullaby

作曲者：G. E. Holmes

楽 曲：

Bb チューバのための作品としてはかなり難しい作品であり Cadenza から始まりテーマ、Variation と変化するすばらしい作品である。チューバの魅力をダイナミックに表現できる代表的なものでありまた音楽的にも技術的にも楽器をはじめてまもない生徒さんにはかなり難しいであろう。音域はBb チューバで十分演奏可能な範囲でカバーされていますがスラーでの16分音符の連続や大型楽器特有のブレスの問題がフレーズの長さから生まれてくる。基本的にあまり休符が多くないためブレスコントロールが必要とされ美しい旋律を朗々と歌いあげることが要求される。ヴァリエーションではより細かい音符によって表現されており正確な音符の発音とリズム感が個々のフレーズの面白さを表現するだろう。とても充実した内容の楽曲のためプロが演奏しても十分に楽しめる高度な作品といえる。

EMMETT'S LULLABY
TRANSCRIPTION
Soro for BB♭ Bass

PIANO ACC.

G. E. HOLMES

Moderato

The musical score is presented in two systems. The first system shows the beginning of the piece with a piano accompaniment. The right hand (treble clef) features a series of triplets of eighth notes, while the left hand (bass clef) plays a steady eighth-note accompaniment. The tempo is marked 'Moderato' and the dynamics are 'Piano' (PIANO ACC.). The second system begins with a 'Cadenza' section, marked 'rall.' (rallentando), featuring a more complex rhythmic pattern in the right hand and a simpler accompaniment in the left hand.

楽譜引用：Rubank, Inc

作品紹介 5

曲 目：Tuba Power

作曲者：Peter Smalley

楽 曲：

この作品は近年、吹奏楽連盟主催の独奏コンクールでたびたび演奏される人気の作品である。まず他の曲同様に生徒たちが使用する Bb チューバでも音域的に演奏可能でありクラシックよりもポピュラー、ロックの音楽スタイルのためとても親しみをもって演奏できる。かなり速いテンポでの演奏でリズムの強調がこの演奏がいか悪いかの鍵になるだろう。ピアノ伴奏との掛け合いがとてもチューバソロと思えないほど格好よく仕上げられている。技術的には音域が他の曲よりは高くなっているので楽器のコントロールが演奏上の重要な課題である。コンクール向けにとってもいい作品である今後もより多くの生徒さんがチューバを独奏楽器として楽しんで学んだりする上でのとても重要なレパートリーとなることであろう。

参考楽譜

Tuba Power
for Tuba (or Euphonium) and Piano

Peter Smalley

Power Rock (♩=184)

7 **A**

hand claps

optina chords in place of hand claps

f

mf

楽譜引用：Studio Music

ま と め

まだまだソロ楽器としては認知度が大型金管楽器であるチューバですが欧米、特にアメリカではこの種の独奏が頻繁に行われソリストとして職業として活動をしている奏者がいるほどである。オーケストラや吹奏楽団で伴奏が主な楽器としてとらえられた時代からヴァイオリンやフルートなど誰もがしている楽器と発展しているのは確かである。日本国内でも吹奏楽の発展と共に伴奏だけをするものという認識は消えているようだ。その一例として吹奏楽連盟主催のソロコンクールでは各地域でとてもすばらしい興味深い独奏をしてくれる中学生や高校生が誕生してくれているのがうれしい。

今回の紹介楽曲によってよりチューバが親しみをもって演奏するきっかけになったり音楽を表現する上で楽器の大小があまり影響しないことをアピールできることを知ってほしい。初心者にも適した楽曲を紹介することでよりチューバの楽しさをしたり演奏能力の高さを知り他の楽器同様に独奏曲を演奏をいつでも演奏してくれることを望む。

